

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・事業所のパンフレット等にも掲載予定している。また、「笑い福い」を地域にも配布していきたい
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	・当事業所の行事や勉強会にも気軽に参加していただけるよう、日頃より声かけしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	・自治会や老人会の行事を把握して積極的に関わってきたい。また、健康コーナーを設けて、血圧測定や健康相談を受けるなどの無料サービスの実施を検討したい。近日伊原区の自治会に入会予定。 ・今年10月に糸満市健康福祉祭りに出展予定

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・「認知症」について勉強会を開催している。(入居者の家族や地域住民対象) ・「認知症サポーター養成講座」を行っている ・運営推進会議で地域の情報交換を積極的に行っている	○	・認知症に関する勉強会だけでなく、看護師による健康講座や介護福祉士による介護方法、ケアマネによる介護保険サービス等の勉強会も提供していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・初めての外部評価で1つ1つ検討している。色々な点での気づきがあった	○	・外部評価で指摘された場合は、改善に向け全職員で取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・平成20年3月より隔月(奇数月)に行っており、毎月の活動内容の報告と意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。また、広報誌の「笑い福い」も配布している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・社協や役所の職員も運営推進会議のメンバーに入っており、普段より行き来する機会はある。当事業所で行っている勉強会にも声かけし、参加してもらっている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員の中には過去に研修に参加し、知識を有している。(管理者、ケアマネ、介護福祉士) ・利用者に1名成年後見制度を利用している方がいる	○	・権利擁護に関する研修会があればその機会には職員全員が交代で参加できるようにしたい。また、自分達で成年後見制度についての勉強会も行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体的虐待については特に入浴時にうっ血斑や傷、火傷等の有無のチェックを行っている。身体的だけでなく言動による虐待がないよう、常に注意し介護に当たっている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約の際は読み上げて説明し、納得していただいた上で契約を交わし1部を事業所控え、1部を本人または家族に交付している。(主にケアマネが担当)</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・玄関に意見箱を設置している。また常にコミュニケーションをとり、利用者が意見は不満等を話しやすいよう配慮している</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・面会時には日頃の様子を詳しく話すようにしている。毎月広報誌を請求書と合わせて送付している。また緊急時や体調不良時は電話にて報告し、面会を促している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・玄関に意見箱を設置している。また、家族会や運営推進会議においては家族代表を参加させており後日それらの議事録は全職員も回覧して、サインさせている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・月1回の職員全体ミーティングを行っている ・普段より申し送りノートを活用しリアルタイムに全職員との情報交換を行っている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・ドライブや買い物、その他の行事や病院受診時にはその都度調整し、柔軟に対応している</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動がある場合は事前に利用者、家族へ説明している。(開所以来、1名の人事異動があり、利用者・家族に挨拶を行った)</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・法人内の勉強会の予定表を事務所に掲示しており、申し込み等で受講するよう促している</p> <p>・研修は交替で受けるよう配慮している</p> <p>・「ぐるケア」の書籍を定期購読している。その他必要な書籍はできるだけ購入している</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・ケアマネ連絡協議会やグループホーム連絡協議会に加入しており、定例会においてお互いのサービスの質の向上に向けて取り組んでいる</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・互助会の行事(みかん狩り、バーベキュー、バレーボール大会、ボーリング大会等)への参加を呼びかけ、楽しんでいる。また、忘新年会、歓送迎会などの食事会も行っている</p> <p>・勤務表はできる限り職員の要望を聞いて作成している</p>	<p>○</p> <p>・定期的に個人面談を行い、意見を聞く体制を設けていきたい</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・資格取得に向けての勉強や研修時には休みを優先的に取れる様にする等、勤務調整を行い支援している</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・入居前に2~3回本人と面談し、笑顔で方言を交えて親しみやすい言葉でコミュニケーションを図っている。</p> <p>・入居前に半日体験も取り入れている</p> <p>・利用者の満足度調査も行った</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・面談室にて家族の思いや気持ちを傾聴し、心に寄り添いながら困っている事を受け止める努力をしている。求めに応じて何回でも相談に応じている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・当事業所の機能、サービスを説明する一方、必要に応じて他の介護保険サービスや介護保険施設の紹介も行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・寄り添い、見守りながら安心して生活が送れるような和やかな雰囲気作りに努めている。また、馴染みのテーブル、マシン等を持込している。半日体験も取り入れている。	○	・今後仮入居期間を設けるなど検討していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・役割を持って生活していただけるよう本人が得意としている事などできる範囲の中で介護者と一緒に食器洗い、花木の水やり、雑巾作り等の作業を行うようにしている	○	・色々な作業にチャレンジしていけるよう環境整備をし、計画的に行っていききたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・誕生会などの行事への参加を積極的に呼びかけ、共に場を盛り上げ、喜びを分かち合えるようにしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・お盆、正月には外出・外泊の協力を求めている。また、面会に長期間来られない家族には電話を入れ、面会をお願いしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所したことにより関係が途切れないよう、馴染親しんだ人達を歓迎している。また来所しやすいような雰囲気作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・常に会話を心がけており孤立しないように努めている。また、利用者の性格等を考慮し、食卓テーブルの配置を決めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・契約が終了しても関係機関に報告連絡相談をしている。 ・電話をかけたり葉書(暑中見舞い等)を出している。また、家族からの相談の電話がある時は相談にのっている。たまに面会にも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の訴えに傾聴し、気持ちを確かめている ・帰宅願望が強い場合は家族へ電話し、協力してもらっている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時、生活歴や生活環境について本人や家族から話を聞き、その人らしい暮らしや尊厳を支えるために生かしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎朝バイタルチェック、SPO2のチェックを行っている ・毎日食事量、排泄チェックを行っている ・入浴時に全身の皮膚等のチェックを行っている ・月1回の体重測定を行い、体重増減に注意している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・定期的にカンファレンスを行い、介護計画に反映させている	○	・業務に追われ、カンファレンスが行えない時があるので、人員を増やしてもっとゆとりをもっていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・定期的にカンファレンスを開催している ・問題が生じた場合は随時話し合っており、毎日の申し送り時に情報を共有し計画を柔軟に作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日個別記録を記入している ・看護師と介護士の両方で記録を行っており情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・隣にクリニックが併設されているため、定期的な受診は看護師が付き添って受診している。 ・併設しているデイサービス利用者との交流も積極的に行っている	○	・開所して7ヶ月なので、ショートステイは行っていないが、利用希望が多い。ショートステイの利用開始を開所から3年経過→1年経過に法改正を希望します。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアや看護学生の体験を積極的に受け入れしている。また、近くの派出所の警察官も馴染みであり、協力を保っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・グループホーム連絡会やケアマネ連絡会に出席し他事業所と情報交換し、よりよいサービス向上のために努力している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・日頃より地域包括支援センターとの情報交換をよく行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個々の希望に応じてかかりつけ医を決めており、受診の際は情報提供を行っている。また、協力医療機関の受診の際は必ず看護師が付き添っている		

沖縄県(グループホーム ひめゆり)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>利用者や家族、協力医療機関の医師や看護師等の関係者と終末期のあり方や方針、対応についての話し合いの機会を持ち、双方の役割を明文化していきたい</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人記録物は事務所内のキャビネットに置いてある</li> <li>・自尊心に配慮しながら個々の状況に応じた声かけや対応を行っている</li> <li>・入職時、全職員に対し個人情報に関する誓約書を書いてもらっている</li> <li>・全職員が個人情報保護法についての勉強会に参加している</li> </ul>	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ ・日常的な会話の中で本人の細かい希望を聞いている。また、個々の理解力に合わせた説明を行い、本人の意思を確認するようにしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な作品作りを行っていきたい。</li> <li>・共同作業での作品作りにも取り組みたい</li> <li>・フリーマーケットにも利用者と一緒に出店したい</li> </ul>
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○ ・起床、食事、入浴の時間が一応決まっているが、個人の希望に応じてできるだけ聞き入れ、時間の押し付けはしていない	○ ・レク等はスタッフ中心で決めた事を行っている事が多いので利用者からも積極的に意見や要望を聞いて決めていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理容、美容は隣接のデイサービスに訪問理容が来るので、来た時に声かけをして利用している</li> <li>・男性は希望によっては男性職員がバリカンでカットしている</li> <li>・時々お化粧品やマニキュアを施している</li> </ul>	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事のメニューは豊富なので、利用者からは好評である。日曜日のみは利用者が好んでいる沖縄そば等の沖縄料理メニューに取り入れている。食事、準備、食器洗いは利用者も一緒に行っている</li> </ul>	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・煙草は喫煙所を設けており、日常的に楽しめるようにしている</li> <li>・おやつは飲み物も栄養面での管理は職員がやっているが、自由に楽しめるように支援している</li> </ul>	

沖縄県(グループホーム ひめゆり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・定時誘導でできるだけトイレで排泄させている ・トイレは日中も点灯し分かりやすいようにしている ・必要な人は夜間はポータブルトイレを設置し、失敗、転倒を予防している ・オムツ使用者は夜間も2～3時間毎にオムツ交換をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・1日おきに入浴させており、汚染時や本人が希望するときはその都度入浴させている(特に回数は制限していない)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・個々の健康状態により、休息や静養を取るよう支援している ・夏場はクーラー、冬場は暖房を入れ温度調整を行っている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・月に1～2回買い物に出かけている ・月に1～2回ドライブに出かけている ・個々に合わせて役割分担や得意分野に即した仕事をやってもらい、必ず感謝の言葉かけをしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・月1～2回近くのスーパーへの買い物に出かけており、個々で支払いしている(どうしてもできない時は職員がさりげなく支援している)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・月1～2回ドライブを実施している ・浜下りでは近くの海に出かけている ・裏庭の畑やゲートボール場へ出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・桜祭り(本部)に出かけた ・ドライブは入居者の希望を聞いて出かけている ・慰霊祭には家族に協力してもらい、平和記念公園へ外出支援してもらっている	○	・家族との外出支援を促進していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・リビングに電話を設置しており、自由に電話ができるようにしてある	○	・今後は家族からのビデオレターも取り入れていきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は特に制限せず、自由に来所していただいております。訪問者は笑顔で迎えています。 ・お茶や茶菓子の提供も行い、和んでもらっている		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「身体拘束禁止規定」は全職員周知しており、基本的に身体拘束は行わないという事で徹底している。(今までに拘束したことはない) ・身体拘束排除マニュアルがある		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・帰宅願望が強く、徘徊する入居者がいた場合は安全対策のため一時的に鍵をかける事もあるが、普段はほとんどかけていない。居室に鍵はない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・常に意識的に所在を確認している ・深夜帯は1時間毎に居室を巡視している ・夜間帯居室は豆球を点けている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・包丁やハンマーなど、危険な物は目につかない棚に保管してある。 ・ライターは昼間は本人に管理させ、就寝前に返してもらって職員が管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・喫煙者のライターは就寝前に回収している(喫煙場所を設けており、居室での喫煙は禁止している) ・誤薬を防ぐために注意事項を表示してある ・個別に介護プランを立て事故防止に取り組んでいる		

沖縄県(グループホーム ひめゆり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・急変時のマニュアルを見える所に掲示してある ・心肺蘇生法の勉強会を実施した(年2回予定している)		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・火災については、通報訓練、避難訓練を行っているが、地域の人々への協力の働きかけをやっていない。 ・災害マップを掲示している。 ・自動火災報知設備、火災通報装置、誘導灯、消火器を設置している。	○	・避難訓練の計画に沿って行っているが、近日消防署の協力の下避難訓練をやる予定である(手続き中)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・安全対策についての同意書を家族より取っている ・リスクの高い入居者に関しては個別の対応策を話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタルチェック、一般状態の観察を行っており、異変時には隣接するひめゆりクリニックの医師に報告し、指示を仰いでいる		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の管理は看護師が行い、介護者への服薬指導も行っている ・一人ひとりの服薬の内容について記入している服薬一覧表を作成し、全職員が把握できるようにしてある ・個人ファイルに服用中の薬品表を入れてある ・副作用の出現時には主治医へ報告し、指示を仰いでいる		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎日食事量、排出チェックを行っている ・便秘時には主治医と相談している ・排便コントロールができるよう心がけ水分補給を促している。副食は常に野菜等の食物繊維を多く取り入れている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・個々の歯磨きセットを洗面所に置いてあり、毎食後口腔ケアを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日食事摂取量のチェックをしている(健康管理表に記入) ・個々に必要な水分量に応じ、水分補給はまめに行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症対策マニュアルがあり、消毒、清掃は統一して行っている。 ・インフルエンザに関しては、全入居者、全職員予防接種を受けている ・定期的に健診を受け、感染症に関しての検査も行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食器は全て乾燥機で乾かしている。 ・調理器具、台所、冷蔵庫もこまめに掃除している ・管理者が毎日検食し、栄養課へ検食表を提出し情報提供している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・道路に面した入り口には大きな看板を掲げている ・玄関前には植物の鉢植えを並べ、明るい雰囲気作りに努めている	○	・玄関の外に花壇を造りたい ・ガーデニングに力を入れたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家具は柔らかいイメージの物を選び、レイアウトしてある ・不快にならないよう音や光に配慮している(カーテンは遮光カーテンとレースカーテンの二重になっている) ・食卓テーブルに季節の草花を飾るようにしている	○	・庭で犬を飼っていききたい(犬が好きな利用者があるので)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングだけでなく廊下、庭、ベランダにもソファを設置し、好きな場所でくつろげるようにしている		

沖縄県(グループホーム ひめゆり)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・畳を好む利用者の居室には家族に協力してもらって畳を敷いている ・愛用していた卓袱台やタンスも活用している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎朝全室の換気を必ず行っている ・日中居室は窓を開けている ・夏場、リビング・食堂のクーラーは28度に設定し、冷えすぎないようにしている(夏場)		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・床の段差をなくし、バリアフリーにしてある ・夜間は廊下の誘導灯を自動で点くように設定してある ・廊下やトイレ、リビング等に手すりを設置してある ・歩行や移動の妨げにならないよう、家具の配置に気を配っている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・各居室には本人が分かりやすいように表札をつける等工夫している ・トイレは場所が分かりやすいように大きく数箇所案内板を表示してある ・リビングや居室にはカレンダー、食堂には食事時間を書いた紙を表示している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・外にも長椅子を置いてあり、煙草を吸ったり、談話したりお茶を飲んだりしている ・裏庭に畑があり、野菜作りをしている ・ゲートボール場もあり、時々楽しんでいる	○	・花壇の花が少ないので、入居者と共に造園に取り組んでいきたい ・裏庭に屋外休憩所を造っていきたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム ひめゆり)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・看護師を2名配置しており、24時間医療連携体制を行っている（同法人のひめゆりクリニック及び24時間オープン同法人南部徳洲会病院もあり、医療のバックアップ体制が整っており安心である）
- ・「認知症」を正しく理解するための啓蒙活動として、医療講話を行っている（勉強会や看護学校での講師等）
- ・誕生会は併設の認知症対応型通所介護と合同で行っており、余興も職員と利用者、家族も一緒になってやっているの、毎回賑やかで楽しい
- ・職員全員が緊急時に備えて対処できるように年2回「心肺蘇生法」について講習会を開催している
- ・介護の経験が豊富なスタッフが揃っており、全員が意欲的で雰囲気も良い
- ・畑やゲートボール場もあり、敷地内が緑に囲まれ、自然環境がいい

記入日：平成20年8月21日